

超低温冷却装置 今冬に生産開始

エィディーディー

冷却用設備の製造や修理を手がけるエィディーディー(静岡
県沼津市)は、マイナス80度以下に冷やせる「超低温」技術を
活用した冷却装置事業を拡大する。次世代半導体製造装置向け
の冷却装置を開発、今年冬から生産を始める。マイナス120
度に対応した業務用冷凍庫も9月に発売する。工場の増設も計
画しており、高まる需要を取り込んで業績向上を図る。

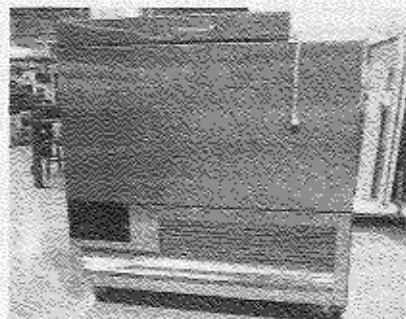
半導体向け マイナス80度まで対応

今冬に生産を始めるの
は半導体製造装置向けの
新しい冷却装置。マイナ
ス20〜30度まで冷やせる
能力が一般的だが、新装
置はマイナス80度まで冷
却することができる。半
導体や半導体製造装置の
メーカーに売り込む。将
来的にはマイナス100
度にも対応させる。

あらゆるモノがネット
につながる「IoT」の
浸透や自動車の電動化な
どを背景に半導体の需要
は伸びている。これまで
平面的回路の微細化で性
能向上に対応してきた
が、近年は回路を垂直方
向に積み上げる3次元化
が目立っている。これ

に欠かせないのが普通電
極(TSV)だ。
ただ、多層化すればす
るほど、TSVを通す穴
を開けるエネルギーがさ
らに必要になる。熱も発
生するため、温度が上が
って加工精度が落ちてし
まう。そこで、これまでよ
り低温で冷却したいとい
うニーズが出ていた。今
回投入する装置は202
1年5月期で5億円の売
り上げを見込んでいる。

一方、業務用冷凍庫は
研究機関や物流企業を販
売先に想定しており、そ
れぞれに合った仕様にあ
らう。研究機関では細胞の
保存などの需要があると
みている。電源工事が難
しかったりスペースが狭
かったりと制限が多いこ
とから、家庭用の小型冷
蔵庫のような感覚で使え
るようサイズを小さくし
た。



新たに参入する業務用冷凍庫
はマイナス120度に対応した



低温環境が欠かせない半導体の
製造工程に対応する(新たな半
導体製造装置向け冷却装置)

るのにも時間がかかるの
がネックとなる。そこで
物流企業向け冷凍庫では
容量を増やし、冷却能力

も高めた。30個計30*
の常温の保冷剤を20時間
でマイナス120度まで
冷却できるという。20
0万電源を使う。

業務用冷凍庫の投入は
同社として初めて。価格
は物流企業向けで300
万円から、研究機関向け
で200万円からを予定
している。受注開始は9

月で、業務用冷凍庫の売
上高は21年5月期で10億
円を目指す。
超低温に対応した装置
への需要増に対応し、生
産能力も拡充する。現在
は2工場あるが、隣接地
に新たに第3工場を建設
する。各装置の量産を行
う予定だ。詳細は決まっ
ていないが、2階建てで

トマト栽培ハウス完成

給り商事、デンソーなどと

給り商事(株)は、デンソー(株)などと
共同で、トマト栽培ハウスを完成させた。
ハウスは、トマトの栽培に適した環境を
作り出すことが目的で、ハウス内は、
温度や湿度を自動で調整できる。給り
商事は、トマトの栽培技術やノウハウを
提供し、デンソーは、ハウスの設計や
施工を担当した。ハウスは、9月に完成
し、10月にトマトの栽培を開始する。
給り商事は、トマトの栽培技術やノウ
ハウを、全国の農家に提供している。
デンソーは、ハウスの設計や施工を、
全国の農家に提供している。

農商工連携で小松菜包装袋



簡食化対応の少量タイプ

給り商事(株)は、農商工連携で、小松菜の包装袋を開発した。包装袋は、小松菜の鮮度を保ち、簡食化に対応した少量タイプを開発した。給り商事は、小松菜の栽培技術やノウハウを提供し、農商工連携で、包装袋を開発した。包装袋は、小松菜の鮮度を保ち、簡食化に対応した少量タイプを開発した。給り商事は、小松菜の栽培技術やノウハウを提供し、農商工連携で、包装袋を開発した。